

平成 22 年 6 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320035

研究課題名（和文） アジア的美意識とは何か

研究課題名（英文） About Aesthetic Senses and Feelings in Asia

研究代表者

神林 恒道（KAMBAYASHI TSUNEMICHI）

立命館大学・先端総合学術研究科・講師

研究者番号：80089862

研究成果の概要（和文）：ポストモダン、あるいはポストコロニアルと称される現状において、かつてのヨーロッパ的なもの、あるいは近代的なものとは対峙するアジア的美意識を貫通するもの、そしてそこから生み出された固有な芸術的創造性、すなわち「アジアの美学」の可能性を探求した。研究期間中、インドネシア、日本、台湾、中国で国際研究大会（アジア芸術学会・会長神林恒道）を開催し、アジア諸国の芸術学研究者との相互理解を深めることが出来た。2008年からは機関誌 *The Journal of Asian Arts & Aesthetics* を刊行し、その成果を発表している。また韓国近現代美術史、中国美学史を翻訳、アジア諸国の国際研究交流に大きな貢献をなした。

研究成果の概要（英文）：Under the present situation, called post-modern or post-colonial, we tried to research for the possibility of Asian Aesthetics, based on our common sensitivity. It must be a critical aesthetics toward modern European aesthetics as before. Within a term of our research, we could open the international conference four times in various Asian countries and promote our mutual understanding. From 2008, we have issued the official bulletin, *The Journal of Asian Arts & Aesthetics*, two times a year, where our academic results were printed. Our translation works of Asian modern art history and Asian traditional aesthetics also made a great contribution to cultural exchange between each country.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
総計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学美術史

キーワード：アジア・芸術学・伝統と近代・インターカルチュラル・相互理解・翻訳
環境芸術・パブリック・アート

1. 研究開始当初の背景

| 2001年アジアで初めて、第十五回国際美

学会議が催された。会議終了後、当時の美学会会長神林の発案と企画により立命館大学の全面的な協力を得て、国際シンポジウム「芸術のアジア - 外からの眼差しと内からの応え」が開催され、大きな反響があった。これを契機に、アジア諸国の美学芸術学研究者が中心となって「アジア芸術学会」が結成された。その後、立命館大学 21 世紀 COE プログラムと連動するかたちで、「アジア的美意識」の研究を、欧米・アジア諸国の美学芸術学研究者（米国カリフォルニア大学・マルラ教授、米国フロリダ大学・シュスターマン教授、ドイツ・ミュンヘン大学ヘンクマン教授、トルコ・アンカラ工科大学・エルツェン教授、韓国ソウル大学・金文煥教授、金英那教授、中国武漢大学・陳望衡教授、台湾・国立台湾芸術大学教授・林保堯教授、インドネシア・国立ジョクジャカルタ芸術大学・バンダム教授他）の協力を得て推進してきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでの欧米中心の美学芸術学研究に対して、アジア固有の美意識に根差した汎アジアの美学芸術学、つまりポストモダンの状況を見すえた「アジアの美学」の確立にある。

3. 研究の方法

そのために韓国、台湾、中国、インドネシア、トルコなど、アジア諸国の研究者と提携して国際研究集会を、研究期間中に 4 回にわたって開催した。その成果として「台湾美学芸術学学会」など、各地に「アジア芸術学会」の研究拠点が立ち上げられた。民族主義的な偏向を回避するために、欧米の芸術学研究者をも招聘して、研究の公正を期した。基盤研究(A)の研究分担者をアジア近代「美学」研究班、アジア近代「美術」研究班、アジア伝統「伝統技能・芸能」研究班、アジアにおける「ミュージアム・美術教育制度」研究班に組織して研究を展開した。

4. 研究成果

4 回に及ぶ国際研究集会のテーマを列挙すれば次の通りである。「アジア美学の可能性」(インドネシア・バリ島)「アジア芸術学の新たなる潮流」(日本・京都)「殖民・都市・文化政策」(台湾・台北)「城市公共芸術」(中国・襄樊)。これらの研究(研究発表・シンポジウム)の主要な成果は、この研究期間に立ち上げられたアジア芸術学会研究機関誌 *The Journal of Asian Arts & Aesthetics* に記載されている。研究者同士の国際交流も頻繁に行われた。アジア諸国相互の研究紹介のための翻訳の実績なども、今回の研究成果として挙げてみようと思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 40 件)

上倉庸敬、輪廻と諦観 小津安二郎『麦秋』、待兼山論叢・美学篇、第 43 号、2009、1~24

並木誠士、中近世における韃靼人図の受容・個人蔵本の紹介と位置づけ、デザイン理論、第 52 巻、2008、93~168

並木誠士、美術館がまちづくりの核になるために、Civil Engineering、第 245 号、2009、8~10

岡林 洋、The Art Sea-lane in Trans-As An expanded interpretation of Tetsuro Watsuji's Fudo, 社会・芸術研究年報、Vol.2、2009、115~120

神林恒道、感性をひらく教育のために(全国大会基調講演記録)、美術教育、292 号、2008、122~127

神林恒道、ドイツ・ロマン派の風景画とは その位置づけと広がりについて、文明と哲学、創刊号 2008 年、117~137
Tsunemichi Kambayashi, Aesthetics in Japan and Aesthetics of Japan, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, Volume 1, December 2008,1~11

Haruhiko Fujita, Letters on Images; Concerning Japanese Art, International Yearbook of Aesthetics, No.12, 2008, 68~90

Haruhiko Fujita, Yanagi Muneyoshi and Yamamoto Kanae: Their Arts and Identities, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, Volume 2, June 2009, 63~69

Haruhiko Fujita, Discovery of "Minka" in the Age of the People, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, Volume 3, December 2009

Yuko Nakama, Aesthetics of Japan as Self-References in Contemporary Art, International Association for Aesthetics: Yearbook, No.12, 2008, 53~67

Yuko Nakama, The Aesthetics of "Silence": Cultural Consciousness in Contemporary East Asian Art Exhibitions, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, Volume 2, June 2009, 1~7

Yuko Nakama, Euphoria of Public Art, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, Volume 3, December 2009, 29~36

中川 真、差異の包摂に向けて、日本ボランティア学会編『多様な市民の邂逅』(2007 年度学会誌) 2008 年、74~85

大橋良介、『精神現象学』における「感性」の射程、理想、679 巻、2007 年、15~29

大橋良介、哲学と建築、 - ゴシックと茶室 光 をめぐって、点から線へ、50号、2007年、22~35

大橋良介、歴史と身体 西田哲学の歴史 思惟、理想、681巻、2008年、5~16

大橋良介、経験・言葉・解体・構築 ヘーゲル『精神現象学』を足場として、立正大学哲学会紀要、第3巻 2009、15~21

Ryosuke Ohashi, Der Weg der Kunstwerke. Humboldt-Forum, wozu?, Der Tagesspiegel, No.14, 2008, 1~25

[学会発表](計20件)

神林恒道、張啓華の画業について、2008年12月17日、第6回アジア芸術学会、台湾・台北国立図書館国際会議場

神林恒道、酒と日本文化、2010年3月23日、文化資産與創意国際学術検討會、台湾・宜蘭・佛光大学

大橋良介、アジア的感性(シンポジウムパネル発表) 2007年8月27日、第5回アジア芸術学会、京都・立命館大学

Haruhiko Fujita, Art, Craft and Architecture for the People, 2008.7.2, The 8th International Conference on the History of the Arts and Crafts Movement, Leidse Volkshuis Leiden

仲間 裕子、美術研究と大学のアート・リソース 立命館大学アート・リサーチセンターの試みと研究活動、筑波大学芸術学シンポジウム「大学アート・リソースの活用と未来」、2008年11月1日、筑波大学

中川 真、Recovery Support and its Distance, Academic Forum, 2008.5.27, インドネシア・ガジャマダ大学

中川 真、Sebuah Proccobaan Kegiatan Gamelan di Jepang, 2008.10.30, インドネシア・ソロ Magnkuningaran 王宮

中川 真、Rice Planting Ritual in Cultural Context; A Case Study of Nara Prefecture, Japan, International Seminar for Ethnomusicology in Asia, 2008.12.23, タイ・チュラロンコン大学

中川 真、For Networking Researchers in Asian Countries, Inter-Asia popular music conference, 2008.7.26, 大阪市立大学

三木 順子、Notion of BILD in an educational Approach at the Bauhaus Preliminary Course, 2008.10.27, The 6th International Conference on Design History and Design Studies, 大阪大学中之島センター

[図書](計15件)

大久保恭子、プリミティヴィズム とプリミティヴィズム 文化の境界をめぐるダイナミズム、三元社、2009、254ページ

仲間裕子、美術研究と大学のアート・リソース 立命館大学アート・リサーチセンターの試みと研究活動、日本の文化政策とミュージアムの未来、ミュージアムの活用と未来、鑑賞行動の脱領域化 平成20年度報告書、2009、26~31ページ

岡林洋・大森淳史・川田都樹子編著、アートを学ぼう Invitation to Art Theory、ランダムハウス講談社、2008年、189ページ
大森淳史・岡林洋・仲間裕子編著、芸術はどこから来て、どこへ行くのか、晃洋書房、2009年、531ページ

藤田治彦(責任編集)、近代工芸運動とデザイン史、思文閣出版、2008、334ページ

中川 真(監修)、第1回アジア・アートマネジメント会議ドキュメント、大阪市立大学都市研究プラザ、2008、61ページ

神林恒道(監修)、日本美術101鑑賞ガイドブック、三元社、2008(台湾・中国語訳出版準備中)、234ページ

並木誠士、絵画の変 日本美術の絢爛たる開花、中央公論社、2009、271ページ

Ryosuke Ohashi, Weltbild - Bildwelt, Walter Schweidler, Sankt Augustin, 2007, 299-307

神林恒道 龔詩文訳東亜美術前史 重尋日本近代審美意識、台北典藏出版、2007、282ページ

金英那、韓国近代美術史 20th Century Korean Art、三元社、2010(日本語訳出版準備中)

陳望衡、中国古典美学史、三元社、2010(日本語訳出版準備中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神林 恒道 (KAMBAYASHI TSUNEMICHI)
立命館大学・先端総合学術研究科・講師
研究者番号: 80089862

(2) 研究分担者

大橋 良介 (OHASHI RYOSUKE)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 30093165

上倉 庸敬 (KAMIKURA TSUNEYUKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 90115824

藤田 治彦 (FUJITA HARUHIKO)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 00173435

並木 誠士 (NAMIKI SEISI)

京都工芸繊維大学・工芸学部・教授
研究者番号：50211446
三木 順子 (MIKI JUNKO)
京都工芸繊維大学・工芸学部・准教授
研究者番号：00283705
青木 孝夫(AOKI TAKAO)
広島大学・総合科学部・准教授
研究者番号：40192455
萱 のり子(KAYA NORIKO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70314440
中川 真(NAKAGAWA SHIN)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号：40135637
米谷 優(YONEYA MASARU)
東亜大学・デザイン学部・教授
研究者番号：10341249
岡林 洋(OKABAYASI HIROSHI)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：80185462
(H20-21)
仲間 裕子(NAKAMA YUKO)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：70268150
上田 高弘(UEDA TAKAHIRO)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：80244979
大久保 恭子 (OKUBO KYOKO)
関西外国語大学・国際言語学部・教授
研究者番号：70293991
吉田 寛 (YOSHIDA HIROSHI)
立命館大学・先端総合学術研究科・准教授
研究者番号：40431879
(H20-21)
小林 信之 (KOBAYASHI NOBUYUKI)
京都市立芸術大学・美術学部・准教授
研究者番号：30225528
(H18-19)